

令和 7 年度事業報告

概 況

国際情勢の不安定等に起因する物価の高騰は、水道光熱費や燃料費、介護用品費など入所者の生活に直接かかわる支出増に大きく影響し、昨年に引き続き当法人経営を直撃した。また人口減少と高齢社会のさらなる進行は、生産年齢人口の減少による人材確保の困難に拍車をかけ、介護福祉士はもとより、無資格、未経験者を求人しても介護職、調理員等への応募者がいないという慢性的な人材不足が一層顕在化した一年となった。

さらに、毎年実施される大幅な最低賃金の引上げ改定をうけた処遇改善の実施や I C T ・ D X の活用、 B C P の実効性確保など、事業所に求められる対応は多岐にわたった。特に、感染症や自然災害への備えについては、形式的な計画策定にとどまらず実践的な運用が求められ、職員への周知・訓練が重要な課題となった。

一方、コロナ禍により制限していた行事や外出活動さらには家族との面会、外出・外泊を緩和し、入所者の皆さんの生活を取り戻すよう進めたが、長引いた制限・制約期間により完全にコロナ禍前に戻すには物心共に時間が要することを実感した一年でもあった。

法人全体の収支は、当期資金収支差額において 1,801,680 円と僅かに黒字を維持することが出来たものの、昨年実績と比較すると約 10,000 千円の減収となった。要因としては、在宅部全体での収支改善が行えなかったこと及び短期入所の稼働率低下、さらに令和 6 年の介護報酬改定において「経過的ユニット型小規模介護施設」としての基本報酬算定が終了し、7 年度より基本報酬単位が大きく減少したことによる。

I C T 整備においては、年度当初計画していた「機能付き介護ベッド」について再度協議検討し「見守りカメラ」の導入に変更した。導入に際しては生産性向上委員会において議論を重ね、多彩な機器がある中でそれぞれ機器を現場職員と各メーカーによるデモンストレーションを何度も行い、導入機材を決定した。また、購入にあたっては兵庫県介護テクノロジー補助事業の申請を行い補助金満額の決定を得たが、決定者が多数となったことにより当初の補助予定額より減額となった。さらに、導入機材と導入済みの「インカム・ハナスト」の機能を十分に発揮させるために古くなった Wi-Fi 環境の改修等が必要となり、補助金及び予算を全額活用することとなった。

最大の懸案事項であった古市サービスステーションについては、職員体制の見直しを断行し事業に取り組んだ結果、大幅な登録数増大につながった。やすらぎ園拠点区分からの繰入金は昨年度の 18,500 千円から今期は 9,000 千円と約半分と大幅に減少した。しかし、職員体制強化による人件費の増加もあり、自立運営にはまだまだ時間を要すると思われるが、サービス内容を充実させ登録者数の定員維持をすることで、将来的な見通しが立ち始めている。今後も、地域に不可欠な事業所として存在し続けることを目指していきたい。

1. 重点項目への取り組み状況

(1) 経営の安定化に向けての積極的な事業推進

事業開始以来、低迷が続いていた古市サービスステーションの事業及び収支状況の改善のため、「経営会議」を「改善検討会議」と位置づけ課題解決に取り組んだことにより、事業運営及び収支の状況は令和6年度と比較し大幅に改善した。

(2) 利用者に寄り添った適切なサービス提供

利用者一人ひとりに寄り添い、その人らしい生活の支援を目指し、ご家族との面会の自由化や外出、外泊の緩和、さらには事業所として外出や地域との交流など適切なサービスの提供に努めた。

(3) 職員の資質及び専門性の向上

オンラインを活用した自主研修プログラムを導入し積極的に研修に参加させるとともに、専門研修や階層別研修に参加し、魅力ある職場づくりに取り組んだ。

(4) 地域貢献事業の実施

丹波篠山市社会福祉法人連絡協議会(ほっとかへんネット丹波ささやま)、丹波篠山市介護サービス事業者協議会への参画や丹波篠山市社会福祉協議会事業への協力、さらには、住民が主体的に開催する「地区福社会議」に積極的にした。

2. 法人運営

(1) 理事会

開催日時・場所、招集日	出席理事	協議事項等	欠席者名	議事録署名人
第1回 5月26日 13時20分 やすらぎ園 招集日 4月23日	芝拓哉 波多野泰守 波多野誠 谷口弘 濱川茂	(議案) 1 令和6年度事業報告及び決算報告並びに監事監査報告 2 社会福祉充実計画 3 任期満了に伴う役員候補の選定及び評議員会への候補者の推薦 4 任期満了に伴う評議員候補者の選定及び評議員選任・解任委員会への候補者の推薦 5 定款の変更 6 令和7年度第1回評議員会の招集	松本修大	芝拓哉 (監事) 濱道由美 三宅利裕
第2回 6月16日 13時25分 やすらぎ園 理事会招集手 続省略同意通 知日 5月26日	芝拓哉 波多野誠 原喜与一 谷口弘 濱川茂 道下敏章 西山美保	(議案) 1 理事長の選定 2 評議員選任・解任委員会委員の選任 1 第三者委員の選任	なし	出席した 全理事 (監事) 濱道由美 三宅利裕 (議長) 谷口弘

第3回 9月22日 10時20分 やすらぎ園 招集日 8月26日	芝拓哉 波多野誠 原喜与一 谷口弘 濱川茂 道下敏章 西山美保	(議案) 1 非常勤職員就業規則の改正 2 給与規程の改正 3 給与規程施行細則の改正 4 評議員選任・解任委員会運営規則の改正 5 特別養護老人ホームやすらぎ園副施設長の選任 (報告) 1 理事長職務執行状況報告 2 介護人材確保・職場環境改善等事業補助金	なし	芝拓哉 (監事) 濱道由美 三宅利裕
第4回 12月8日 13時25分 やすらぎ園 招集日 11月10日	芝拓哉 波多野誠 原喜与一 谷口弘 濱川茂 道下敏章 西山美保	(議案) 1 令和7年度第1次補正予算 2 令和7年度第2回評議員会の招集 (報告) 1 令和6年度丹南厚生会経営分析 2 令和7年度やすらぎ古市館経営状況	なし	芝拓哉 (監事) 濱道由美 三宅利裕
第5回 2月9日 9時55分 やすらぎ園 招集日 1月16日	芝拓哉 波多野誠 原喜与一 谷口弘 濱川茂 道下敏章 西山美保	(議案) 1 職員の私有自動車等業務使用に関する規程の制定 2 給与規程の改正 3 経理規程の改正 4 評議員候補者の選定及び評議員選任・解任委員会への候補者の推薦	なし	芝拓哉 (監事) 三宅利裕
第6回 3月16日 9時55分 やすらぎ園 招集日 2月25日	芝拓哉 波多野誠 原喜与一 谷口弘 濱川茂 道下敏章 西山美保	(議案) 1 令和7年度第2次補正予算 2 令和8年度事業計画(案)及び予算(案) 3 役員等賠償責任保険契約 4 令和7年度第3回評議員会の招集 (報告) 1 理事長職務執行状況報告	なし	芝拓哉 (監事) 濱道由美 三宅利裕

(2) 評議員会

開催年日時、 場所等	出席評議員	協議事項等	欠席者名	議事録 署名人
第1回 6月16日 10時25分 やすらぎ園 招集日 5月26日	永井孝喜 原田勇 酒井一行 松岡四郎 青木恵子 前嶋弘	(議案) 1 令和6年度事業報告・決算報告及び監事監査報告 2 社会福祉充実計画 3 理事及び監事の選任 4 定款の変更	石黒久雄	松岡四郎 青木恵子 (議長) 酒井一行
第2回 12月22日 13時25分 やすらぎ園 招集日 12月8日	原田勇 松岡四郎 酒井一行 青木恵子 波多野正和 竹本正之 藤原賢治 松本修大	(議案) 1 令和7年度第1次補正予算 (報告) 1 社会福祉法人丹南厚生会役員等 2 規則、規程の改正 3 介護人材確保・職場環境改善等事業補助金の活用 4 令和6年度丹南厚生会経営分析 5 小規模多機能型居宅介護センターやすらぎ古市館の経営状況	なし	波多野正和 竹本正之 (議長) 原田勇

第3回 3月30日 13時30分 やすらぎ園 招集日 3月16日	原田勇 松岡四郎 青木恵子 波多野正和 竹本正之 藤原賢治 酒井裕園	(議案) 1 令和7年度第2次補正予算 2 令和8年度事業計画及び予算 (報告) 1 規則、規程等の改正	酒井一行 松本修大	藤原賢治 青木恵子 (議長) 松岡四郎
---	--	--	--------------	----------------------------------

(3) 評議員選任・解任委員会

開催年日時、場所等	出席委員	協議事項等	欠席者名	議事録 署名人
第1回 6月2日 13時30分 やすらぎ園 招集日 5月12日	前田公幸 三宅利裕 道下敏章	(議案) 1 任期満了に伴う評議員の選任	なし	全委員 (議長) 道下敏章
第2回 2月23日 10時00分 やすらぎ園 招集日 2月2日	前田公幸 永井孝喜 三宅利裕 吉田大介	(議案) 1 評議員の選任	なし	全委員 (議長) 吉田大介

(4) 監査等

監事監査

実施日：5月26日(月) 10:00~12:30

実施場所：特別養護老人ホームやすらぎ園

監査内容：令和6年度事業実施状況及び会計執行状況

実施者：三宅利裕監事、濱道由美監事

出席者：芝拓哉理事長、谷口弘理事(施設長)、濱川茂理事(事務長)
道下敏章在宅部長、西山美保特養部長、三崎ちどり総務室長

(5) 丹南厚生会役員等研修会

開催日時：7月28日(月) 13時30分~15時30分

開催場所：やすらぎ園 談話室

参加者：理事(5)、監事(1)、評議員(4)、その他丹南厚生会関係者(6)

他法人役職員(5)、やすらぎ園職員(8) 合計29名

内容：講演「社会福祉法人の役割と今後の法人経営を考える」

講師 兵庫県社会福祉協議会 福祉事業部長 荻田藍子氏

やすらぎ園事業紹介：各室長より

3. 会議・委員会等の開催

(1) 会議

① 経営会議

定期的に事業の進捗管理及び懸案事項を協議し、法人経営を適切に進めた。

出席者：理事長、施設長、副施設長、各部長

開催日：(定例)毎週月曜日

開催回数：令和7年4月7日～令和8年3月30日 延45回

② 運営会議

各部門の調整や組織の方針や目標を共有すると共に、事業進捗状況の報告の場として開催した。

開催日：毎月第1月曜日 延べ12回開催

出席者：理事長、施設長、副施設長、部長、室長

③ 職員会議(スタッフ会議)

全職員が参加する全体会議として5月1日に開催した。

内容：・令和7年度の職員代表：足立典行(相談室 副主任)を選出

・令和6年度職員互助会会計報告

・令和7年度丹南厚生会事業計画及び予算説明 他

④ 部門別会議

本館、デイサービスセンター、居宅介護支援事業所、小規模多機能など部門ごとに課題解決や情報の共有やケアカンファレンスの場として概ね毎月開催した。

(2) 委員会等

① 生産性向上委員会：4回(新規)

② 入所判定委員会：12回

③ 身体拘束廃止委員会：4回

④ リスクマネジメント委員会：2回

⑤ 事故防止対策委員会：31回開催(従来型 14回、ユニット型 17回)

⑥ 感染症対策委員会：5回

⑦ 虐待防止委員会：2回

⑧ 給食委員会：6回

⑨ 行事委員会：11回

(3) 研修会

① 内部研修

ア. 身体拘束研修

第1回 7月14日(月)

内容：認知症と身体拘束

第2回 1月5日～30日

内容：(動画研修)緊急やむを得ない身体拘束に対する認識

イ. 事故防止研修

第1回 7月14日(月)

内容：実践！リスクマネジメント

- 第2回 1月5日～30日
 内容：(動画研修) 事故を未然に防ぐには
- ウ. 感染症予防研修・訓練
- 第1回 10月7日(火)
 内容：丹波篠山市介護サービス事業者協議会主催の感染症研修会に参加
- 第2回 1月12日(金)
 内容：ノロウイルスについて、嘔吐物処理方法(実践研修)
- エ. 虐待防止研修
- 第1回 6月24日(火)
 内容：施設従事者虐待防止と不適切ケア～日頃の支援を通して考える～
- 第2回 7月29日(火)
 内容：擁護者虐待防止に向けて(在宅系)
- 第3回 3月16日～31日(フォローアップ動画研修)
 内容：「人がいないから」を「不適切ケア」にしない！
- オ. 入職時研修
- 採用時、随時開催
 延べ12日間、延べ22名
 内容：職場概要、職業倫理と行動基準、感染予防、人権・尊厳・守秘義務等
- カ. BCP研修
- 第1回 11月13日～12月11日
 内容：(動画研修) 介護サービス事業所の防災対策とBCP
- 第2回 3月16日～31日
 内容：(動画研修) 地震による災害と備え
- キ. フォローアップ動画を利用した自主研修等
- 従来型職員：14テーマ、延べ16名受講
 ユニット型職員：9テーマ、延べ10名受講
 相談室職員：1テーマ、1名受講
 総務職員：1テーマ、1名受講
- ク. 外部講師による内部研修

研修名	講師	参加人数
排泄ケア研修	ユニ・チャーム	7
排泄ケア研修	TENA	20
口腔ケア研修会	有本歯科医院	15

② 外部研修 (WEB研修含む)

研修名等	参加人数
認知症介護実践者研修	2
認知症介護実践リーダー研修	1

兵庫県福祉人材センター 福祉従事者のためのアンガーマネジメント研修	1
兵庫県福祉人材センター 相談面接技術研修	1
科学的介護情報システム（LIFE）研修会応用編	1
兵庫県介護支援専門員協会丹波支部研修会	1
丹波篠山市歯科医師会 介護職等対象研修会	4
都道府県経営者協議会経営セミナー 前期・後期	1
兵庫DWA T養成（基礎）研修	2
兵庫県老人福祉事業協会調査研究委員会セミナー キャリアパス・人材育成計画	1
丹波篠山市男女共同参画研修会	1
丹波篠山市介護サービス事業者協議会施設サービス部会研修	1 1
介護現場の生産性向上に関する不急加速化事業 介護現場における生産性向上推進フォーラム	1
見て・触れて・試せる体験型勉強会 自立を助ける住環境づくり	1
丹波篠山市多職種連携会議「この指と～まれ」	6
社会福祉法人人事労務管理講座(オンライン)	1
生産性向上推進フォーラム	2
外国人介護人材研修会	1
雇用管理者研修会	1
社会福祉法人財務管理研修	1

4. 事務局及び共通部門

(1) 総務

紹介会社を通じた人材確保が未だ主流ではあるものの、ホームページやハローワーク、また職員紹介を通じて数名ではあるが新規採用に繋げることができた。その中には短期間で退職に至ったケースもあったものの、現場での研修体制も備わり多くの職員が継続している。一方、事業所の中心軸となる室長や主任の退職者が発生し、組織を保全していく体制づくりの強化が引き続き必要となっている。

Eラーニングによる研修プログラムを今年度より導入したが、介護を軸とした各テーマが主流でもあり、業務部全体としてはあまり活用することができなかった。ただ内容については、現場に役立つテーマも多くあり、新人研修や現職の職員育成等において活用した。

さらに、義務化された研修の内容も豊富であり、次年度も導入を継続し、外部研修とのバランスを調整しながら各職員の適性に合った育成につなげていきたい。

総務内では、年度開始直後に長期病欠の職員が退職となったものの、比較的スムーズに人員補充ができた。職員間での基本的役割分担は行いつつも各職員の知識向上、また将来的なA Iの活用を視野に入れた業務全般の見直しなどを行った。さらに外部からの積極的な情報収集や「介護情報基盤」導入への理解も深めていくようにしていきたい。

(2) 栄養調理

調理職員は介護職員以上に人材の確保に苦慮する部署となっており、今年度も2名を採用したものの、いずれも短期間で退職した。さらに、年度末にはベテラン職員が突然に退職し、厳しい現状が続いている。採用活動は続行しながらも、新たな役職を任命し新規入職職員が継続できる業務内容の再考や必要時間帯のみの短時間勤務者の採用等、現状の補充が早くできる体制の確保を目指した。このような状況ではあるが、利用者が季節感を感じる食事メニューの提供や地方の郷土料理や行事食の工夫、そして彩を付加するための食器類の購入など、「食」というものの楽しさやワクワクを常に意識し、サービスの質を低下させないように努めた。

(3) 行事

① やすらぎ園ふれあいまつり

開催日：8月24日（日）15：00～19：30

開催場所：やすらぎ園本館及び新館

参加者：やすらぎ園入所者、職員

内容：催し物（デカンショ踊り、ゲーム、屋台）、花火等

② 敬老祝賀会

開催日：9月15日（月・祝）

③ 新年祝賀会

開催日：1月1日（木・祝）

④ 古市館餅つき大会

開催日：2月5日（日）

開催場所：古市サービスステーション

参加者：やすらぎ園古市館利用者及びその家族、地域住民等

内容：催し物（餅つき大会、ゲーム等）

⑤ 職員忘年会

開催日：12月22日（月）

開催場所：ユニトピアささやま（参加者：40名）

内容等：職員の交流の場として開催（理事長来賓参加）

(4) 広報、PR活動

やすらぎ園ホームページ（sasayama-yasuragien.com）のブログ機能を活用し、施設の日常や行事の様子、また季節ごとのイベントなどを年間48件掲載した。継続的に施設の雰囲気や職員の取り組みについて情報を発信することで、利用者やその家族、地域住民への施設・事業理解の促進を図った。さらに、ホームページを閲覧して職員募集に応募してきた者もあり、求人活動の一翼を担っている。

(5) 防災・防火訓練

① やすらぎ園（通報訓練、避難訓練、消火訓練等）

- (第1回) 7月22日(火)、(第2回) 11月11日(火)
- ② 古市館消防訓練
(第1回) 9月24日(水)、(第2回) 3月26日(木)
- ③ 災害発生時システム訓練(県主催)に参加
- ④ BCP訓練
第1回 2月20日(ユニット)、2月27日(本館)
内容: 災害対応の机上訓練
第2回 3月16日～31日
内容: ビジネスチャット「エルガナ」を用いた安否確認訓練

(6) 事故・ヒヤリハット

- ① 事故報告件数: 329件
内訳: 本館260件、ユニット69件
内容: 転倒、落葉発見(薬飲み忘れ)、ベッド・車いすずり落ち、柵外し
- ② ヒヤリハット報告件数: 231件
内訳: 本館198件、ユニット33件
内容: 配薬ミス、(一人で) 外へ出ようとする、コールマット電源オフ
- ③ 重大事故(市報告)件数: 7件(骨折)

(7) 協力医療機関との連携

- ① 西井クリニック(嘱託医及び産業医として、利用者や職員の健康の維持向上に関わってもらった)
- ② ささやま医療センター
- ③ いわくらクリニック(定期的に精神科診療)
- ④ 有本歯科医院(口腔衛生等で定期診断)

(8) 兵庫県社会福祉法人経営者協議会、兵庫県老人福祉事業協会、丹波ブロック老人福祉事業協会

丹波ブロック老人福祉事業協会より県老人福祉事業協会のデイ部会担当となり、県事業に参画するとともに、丹波ブロック事業に参加した。

また、県社会福祉法人経営者協議会主催行事にも積極的に参加した。

5. 事業実施状況

(1) 従来型特養、短期入所生活介護

① 評価

令和7年度の上半期は、入院者数と入院日数が比較的に多く、特に4月からの3か月間の月平均入院者数は3名、平均入院日数は66日であったため稼働率は97.7%となった。

下半期については、11月、12月に入院日数が多く空床が増え、稼働率は96.6%となり、1年間を通しての稼働率は目標から約0.8%下回る98.0%になった。

稼働率の低下は、体調不良による入院が主な原因となっており、今後は利用者の日々の生活の中での異変の気付きや医務との連携を強化し、体調変化の早期発見、早期対応に努め、重症化の予防及び入院期間の短縮につなげたい。

また、新規入職職員については、個々の能力に応じた個別の職員育成計画を立て、研修・指導を実施した結果、早期に独り立ちさせることができた。今後も、職員の育成及び定着に努め、安定した人員体制を確保したい。

② 重点項目の取り組み、評価

ア. 介護ソフト「ケアカルテ」を活用し、効率的な業務改善を実施することで働きやすい職場環境づくりと余暇活動など介護の充実を図る

介護ソフト及び音声入力で記録できる「ハナスト」の導入で、記録に要する時間が短縮でき、その時間を利用者のレクリエーションや係業務、利用者のケアについて検討する時間に活用することができた。また、僅かではあるが業務の見直し・改善を行い、以前より働きやすい職場環境に向かっている。余暇活動については、人員体制の問題もあり満足に実施することはできなかったが、職員一人ひとりが積極的に時間を作り実施するようになったことは評価できる。

今後も、介護ソフトや見守りカメラを有効に活用し、業務改善を行うとともに職員の定着促進とサービスの質の向上に努めていきたい。

イ. 生活の目標や生きがいとなるようなレクリエーションや外出支援などを企画し、充実した生活を送っていただけるよう支援する

レク係を中心に行事係と連携し、季節行事やドライブ、外食などの外出支援を実施して利用者に大変喜ばれた。また、個別の絵画や塗り絵、集団での歌や体操などを実施したが、利用者と一緒に行う各フロアの壁画制作は実施できなかった。

今後もリクライニング利用者や寝たきりの利用者などにも状態に応じた柔軟な支援を行い、すべての利用者の身体機能の維持・向上、生きがいを感じられる生活の実現に努めていきたい。

ウ. 職員の資質向上と人材育成を図ることを目的に施設内、外部での研修を活用し、専門性の向上に努める

施設内研修は、年間計画を立てオンラインによるフォローアップ動画研修に取り組み、計画的に毎月受講した。外部研修は認知症に対してのケア向上を目的とした認知症介護実践者・リーダー研修や職場の改善・仕事へのモチベーションアップを図るアングーマネジメント研修に参加し、介護職としての専門性スキルの向上を図った。

今後は、さらに専門性を向上させるために研修で習得した内容を適切に伝達研修するとともに、日常業務で実践できるよう研修体系の確立を図り、人材育成に努めたい。

③ サービス状況、事業内容、特徴的な事項

季節行事やドライブ・外出支援は計画通りに実施し、利用者に楽しんでいただくことができた。また、各担当職員が利用者の個別ニーズに対応し、塗り絵、点つなぎ、ドリルの

提供や気分転換のための施設周辺の外気浴や散策を実施した。

④ 行事等の様子

誕生日おめでとう



ドライブ(ファミレスで食事)



音楽会鑑賞



新年祝賀会



ふれあいまつり

味間二村神社 秋季大祭



クリスマス会



⑤ 実利用者数（定員 58 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	23
介護2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	3	38
介護3	26	23	24	23	24	24	26	25	26	24	25	23	293
介護4	15	16	16	15	15	16	15	18	15	16	15	17	189
介護5	13	13	14	14	14	14	15	11	13	13	13	15	162
計	59	57	59	57	58	59	61	59	59	59	59	59	705

⑥ 延利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護1	60	62	60	62	62	60	62	60	62	62	56	31	699
介護2	90	93	90	93	93	90	93	90	67	100	112	93	1,104
介護3	724	682	660	713	744	698	757	750	806	744	669	707	8,654
介護4	450	496	461	465	465	444	437	470	465	496	420	500	5,569
介護5	337	403	420	434	434	420	423	311	340	377	364	465	4,728
計	1,661	1,736	1,691	1,767	1,798	1,712	1,772	1,681	1,740	1,779	1,621	1,796	20,754
ベッド数	1,740	1,798	1,740	1,798	1,798	1,740	1,798	1,740	1,798	1,798	1,624	1,798	21,170
稼働率	95.5%	96.6%	97.2%	98.3%	100.0%	98.4%	98.6%	96.6%	96.8%	98.9%	99.8%	99.9%	98.0%

⑦ 入退所者、入院者数等

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
退所数	3	2	1	1	0	1	4	1	3	1	2	1	20
入所数	2	2	2	0	1	1	3	2	2	2	1	2	20
入院者	3	2	4	1	0	2	2	2	2	1	0	0	19
延入院日数	73	57	70	31	0	28	21	45	53	12	0	0	390

⑧ 短期入所生活介護（定員12名）利用日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	4	0	0	10
要支援2	3	0	3	2	3	5	3	8	0	3	4	3	37
介護1	53	61	72	65	66	60	61	60	35	30	40	45	648
介護2	12	11	27	32	16	15	9	13	11	48	42	35	271
介護3	114	89	43	19	57	84	50	15	17	56	94	80	718
介護4	39	41	39	79	84	100	79	68	47	92	87	97	852
介護5	36	51	18	17	11	18	47	21	73	22	12	14	340
計	257	253	202	214	237	282	249	185	189	255	279	274	2,876
ベッド数	360	372	360	372	372	360	372	360	372	372	336	372	4,380
稼働率	71.4%	68.0%	56.1%	57.5%	63.7%	78.3%	66.9%	51.4%	50.8%	68.5%	83.0%	73.7%	65.7%
1日平均	8.6	8.2	6.7	6.9	7.6	9.4	8.3	6.2	6.1	8.2	10.0	8.8	7.9

(2) ユニット型特養

① 評価

利用者がその人らしく楽しみのある生活が送れるよう、担当職員を中心に利用者の日々の細かな変化に気を配り、多職種が連携を取り生活の質の向上に努めた。面会は、時間や人数の制限がある中でも、居室での面会を実施したことで利用者及び家族から喜びの声をいただいた。一方、利用者対応では、職員間の情報共有不足からご家族等より指摘を受けることが発生したが、この指摘を真摯に受け止め対応を改善するとともに、利用者やご家

族の声を大切に受けとめたことにより、信頼関係がより深まった一年であった。

稼働率は、退所や長期入院に伴う空床期間が増加したことにより低下し、積極的な入所受け入れを行ったものの年間目標には達しなかった。今後、多職種との連携を強化し、稼働率の目標達成を目指したい。

② 重点項目の取り組み

ア．職員の意識改革と資質の向上を目的に研修や施設見学を活用し、ユニットケアとしてのサービスの質を向上する

人材育成については、オンラインによるフォローアップ動画研修や事業所内研修、外部研修を実施し、全職員が参加できる体制を整え、職員一人ひとりの知識・技術の習得と資質の向上に繋げることができた。一方、他施設への見学については実施できなかった。今後も、積極的に各種研修に参加するとともに、他施設見学の機会を設け、ユニットケアのさらなる質の向上に努めたい。

イ．レクリエーションや行事を企画し、個々の利用者の楽しみやニーズを見出し、日々の生活を楽しんでいただけるよう支援する

係を中心に利用者が楽しめるレクリエーションや行事を企画実施した。また、季節にちなんだ行事や季節のおやつ作りを行い、四季の移ろいを感じていただけるよう努め、日々の生活の楽しみにつなげるよう支援した。今後も利用者一人ひとりの希望やニーズを把握し、活動内容の充実を図り、季節感を大切にした行事やレクリエーションを実施し、生活の質の向上を図りたい。

③ サービス状況、事業内容、特徴的な事項

利用者一人ひとりの個性や生活のリズムを尊重した支援に努めたが、業務状況や人員体制等により十分にできなかった。日々のケアやレクリエーション、季節行事を通して利用者との関りを深めるよう取り組んだが、個別性を重視した関りやゆとりある環境づくりについては課題が残った。

また、利用者の安全確保と職員の負担軽減を目的として見守りカメラを導入し、夜間を含め見守り体制の強化を図った。今後は、見守り機器を有効に活用しながら利用者主体の支援と安心して生活できる環境づくりに努めたい。

④ 生活の様子

クリスマス会



餅つき



ドライブ（陶芸美術館）





今月の誕生日



味間 二村神社 秋季大祭



えんどうのさやむき



ふれあいまつり



新年祝賀会

⑤ 実人員（定員 30 名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	計
介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護 2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	27
介護 3	11	13	14	14	13	12	12	12	12	11	12	12	148
介護 4	7	7	5	6	7	7	7	7	6	5	4	4	72
介護 5	9	8	8	8	9	9	9	10	10	11	11	11	113
計	29	30	29	30	31	30	30	31	30	30	30	30	360

⑥ 延利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	計
介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護 2	60	62	60	62	62	60	62	60	62	93	84	93	820
介護 3	327	382	408	434	374	360	357	322	372	341	336	372	4,385
介護 4	210	205	150	186	202	210	210	177	186	155	91	116	2,098
介護 5	263	248	240	248	273	270	279	290	297	331	308	323	3,370
計	860	897	858	930	911	900	908	849	917	920	819	904	10,673
ベッド数	900	930	900	930	930	900	930	900	930	930	840	930	10,950
稼働率	95.6%	96.5%	95.3%	100.0%	98.0%	100.0%	97.6%	94.3%	98.6%	98.9%	97.5%	97.2%	97.5%

⑦ 入退所者、入院者数等

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
退所数	2	1	0	1	1	0	1	1	0	0	1	1	9
入所数	1	2	1	0	2	0	0	2	0	0	0	1	9
入院者	2	2	1	0	0	0	1	2	1	1	0	1	11
延入院日数	32	23	30	0	0	0	15	38	13	10	0	8	169

(3) 相談室

① 評価

利用者及び家族が安心してサービスを利用し、ニーズの実現につながるよう他職種や他事業所と連携を図りながら生活支援に努めた。

家族との関りにおいては、電話やLINEでの連絡をはじめ、受診時、面会時、外泊・外出時などの機会を通して積極的にコミュニケーションを図り、利用者の状態や生活状況を丁寧に伝え、信頼感や安心感を持ってもらえるように努めた。

また、入退所支援については、居宅介護支援事業所や関係機関と密に連絡調整を行い、円滑な受け入れや支援につなぐとともに、ショートステイ利用者や入所者の確保に努めた。さらに、利用者や家族の意向を尊重しながら、継続した支援体制の構築に取り組んだ。

② 重点的な取り組み、評価

ア. 空床日数短縮のための取り組みをする

空床日数の短縮と稼働率向上を目的として、必要時に迅速に入所判定委員会を開催し、円滑な入所調整に努めた。また、入院などによる空床については、ショートステイ利用者の受け入れを行うことで、空床期間の減少に繋げた。さらに、試用利用の希望者に対しては、家族やケアマネージャーと連携を図り利用日の提案や調整を行い、継続的な利用へつなげることができた。これらの取り組みにより、空床の有効活用と稼働率の向上に努めた。

イ. 受診時の調整がスムーズに行えるように嘱託医や協力医療機関と連携を図る

利用者の受診や入院調整が円滑に行えるよう、嘱託医及び協力医療機関との連携強化に努めた。定期外来受診や緊急時の受診、入院要請に対しては医務と連携し家族への連絡、説明等迅速な対応を行った。

また、退院時には利用者が安心して施設生活に戻ることができるよう医療機関との情報共有や受け入れ準備を行い、スムーズな退院と生活再開に向けた調整に努めた。

さらに、毎月開催された協力医療機関連携会議に参加し、協力医療機関や各施設と受け入れ状況や感染症の発生状況等について情報交換を行い、連携体制を強化した。

ウ. 施設の方針に従い、外出や外泊など利用者や家族に寄り添える支援をする

6月1日より面会や外出、外泊の制限を緩和し、安心・安全に配慮しながら利用者や家族の意向に添った支援を実施した。(実績：外泊件数13件、外出件数41件、外泊利用者数延べ3名、外出利用者数延べ7名)(従来型、ユニット型合計)

外泊や外出は家族の協力で行われ、利用者が家庭や地域とのつながりを感じる機会となった。外泊では気分転換や地域の敬老会への参加、外出では季節ごとの花見や参拝などであり、利用者の生活意欲の向上につながった。

エ. 利用者のカンファレンスの実施、調整、見直しを行い、利用者本位のサービスを提供する

利用者一人ひとりの状態や意向に応じた支援のため、本館・ユニットでは6ヶ月毎に内容確認や支援見直しのケアカンファレンスを行い、利用者本位のサービスを提供を目指した。特に看取り時では、利用者及び家族が心残りなく過ごせるよう寄り添った支援に努めた。

また、入所当初から利用者家族には面会時や電話、LINEなどを活用して施設での生活状況や利用者の様子を適宜伝え、信頼関係の構築に努めた。

カンファレンスを通して多職種間で情報共有を図り、利用者や家族の思いに寄り添った支援につなげることができた。

オ. LIFEへの情報提供を行い、個別機能訓練加算Ⅱの加算取得をする

加算取得に向け必要な体制を整備し、利用者及び家族への説明を行い1名を除く全利用者の同意を得てLIFEへの情報提供を行った。

また、LIFEからのフィードバック情報により、個別機能訓練の評価や訓練内容の見直しを行った。さらに、得られたデータを多職種で情報共有し、より利用者の状態に即した機能訓練の実施及び機能向上に努めた。

③ 入所状況

入所実績 従来型 20名(退所者20名)

ユニット型 9名(退所者9名)

④ サービス状況、事業内容、特徴的な事項

音楽療法や紙芝居などのボランティアを受け入れ、利用者の楽しみや交流の機会の充実に努めた。また、園芸療法では、6月に玉ねぎの収穫、11月に玉ねぎの植え付けを利用者と一緒に行い季節を感じながら行事を楽しんでいた。

また、やすらぎ園のブログを通じて音楽療法やレクリエーション、ドライブなどの様子を発信し、家族や地域への情報提供に努めた。

さらに、デイサービスや古市館の利用者の心身機能評価や個別機能訓練の相談及びプログラム作成を在宅部と連携して行った。

⑤ ボランティアの受け入れ、園芸療法の様子



紙芝居(ボランティア)



玉ねぎの植え付け(園芸療法)



音楽療法(ボランティア)

(4) 医務

① 評価

利用者一人ひとりの健康状態の把握に努め、日々の観察に加え介護職からの報告や相談に迅速に対応した。体調変化や異常の早期発見を意識し、受診が必要と判断した際には相談室と連携し、早期受診・早期対応に努めることで、状態悪化の防止と早期回復につなげることができた。また、受診結果やその後の対応については、必要に応じて嘱託医より家族へ説明を行うなど、利用者及び家族の意向に寄り添った支援を心がけ、安心して生活が送れることができるよう努めた。さらに、感染症については常に高い意識を持ち、社会情勢や感染動向を注視しながら、施設内での感染標準予防策を徹底、継続実施に取り組んだ。

② 重点項目の取り組み状況

ア. 利用者の体調に気付きが持てるよう普段の健康状態を把握し、職員間の情報共有とケアの質の向上に努める

利用者の小さな体調変化に気付くため日頃から健康状態の把握に努めた。介護職員からの報告や相談に加え、ラウンド時の「いつもと違う」と感じる変化を大切にし、早期対応につなげた。また、統一した看護、ケアを提供するため適切にケアカンファレンスを行い情報変化の共有、対応などを意見交換した。さらに、非常勤職員にも書面によるケアカンファレンスへ参加できる体制を整え、利用者状況やケア内容を共有し、職員全体で利用者理解を深め、ケアの質の向上に努めた。

イ. 施設の感染マニュアルを整理し、その方針に従った各部署の特徴を活かした内容に見直しを行い、全職員が共有してマニュアルに沿った行動ができるように支援する

全職員が統一した対応ができるよう感染症研修を実施し、基本的な予防対策や対応方法について周知を図り、職員一人ひとりの感染症対策への意識向上に努めた。

③ 利用者の状況

兵庫県健康財団による入所者健康診断を4月に実施し、利用者の健康状態の把握に努めた。また、血液検査の結果をもとに栄養会議を行い、利用者一人ひとりの状態に応じた栄養改善や健康維持に取り組んだ。

今年度は21名の利用者の看取り支援を行った。利用者家族の意向に寄り添いながら、他部署と連携、協力し、安心して最期の時間を過ごしていただけるよう努めた。今後はさらに、看取りに移行される際には家族等の関係者に同席を求め、身体的・精神的な苦痛の軽減に配慮し、利用者がその人らしく過ごせるよう「看取り支援会議」を実施し、多職種と連携を図りながら支援を行いたい。

④ 感染症予防の推進

- ・入所者健康診断（兵庫県健康財団） 4月
- ・带状疱疹ワクチン接種（対象者13名） 1回目：8月、2回目10月
- ・新型コロナウイルス・インフルエンザ予防接種（全利用者） 11月
- ・各居室に加湿器を設置（室温・湿度管理） 11月～3月

(5) やすらぎ園デイサービスセンター

① 評価

1年を通じて、行事やレクリエーション等の取り組みに力を入れ利用者に喜んでいただいていたが、新規利用者の獲得にはつながらず稼働率を上げることができなかった。

取り組みでは、個々の能力・趣味を活かし、それぞれの作品作りに取り組んでいただけたようアイデアの提供や準備、制作のフォローを行なった。そして、その作品を「月刊デイ」のレク・クラフトコンクールに応募し、個人の作品が賞を獲得した。このことはご本人だけでなく家族はもちろん他の利用者も大変喜ばれ、デイサービス全体でモチベーションが上がり、意欲向上につながった。

その他、出来上がった作品はすぐに施設内に展示し、秋には文化祭、年度末には地域の高齢者の作品展にも参加し、利用者のモチベーションアップだけでなく、当デイの取り組みを他事業所やケアマネ、一般の方にもアピールすることができた。

また、作品作りだけではなく、リハビリ加算の休止後も、加算の利用者には引き続き平行棒内運動や廊下歩行等実施し、利用者や家人の要望に応えた。

② 事業計画での重点項目の取り組み状況

ア. 個々のニーズに応えられるサービスを実践する

リハビリを希望された方に対し、理学療法士による指導のもと目標に沿った運動を実施した。(令和8年1月より加算を休止) その他、交流や入浴、認知症進行予防等のニーズに対し、プランに沿って実践したが、今後、アンケート等で満足度を調査する必要がある。

イ. 新規獲得に向け広報活動を行う

2か月に1回の『茶の花通信』は、計画通り配布できた。また、3か月毎に空き情報を配布し、地域の文化祭・作品展・インスタグラムの案内、体験利用・号外(月刊デイでの受賞について)を定例会や送迎後に事業所まで持参する等の営業活動を行った。

ウ. 介護ソフトを活用し、業務の効率を上げる事で他のサービスへ還元する

導入前は記録に時間を要し、リーダー業務や現場のフォローに入るだけで他のサービスに関わることはできなかったが、介護ソフトに慣れ少しずつ時間が作れるようになり、広報作成や個別の取り組みの準備等に時間を費やすことができるようになった。今後は現状を踏まえ、業務の効率を上げる対策や業務の分担を検討する必要がある。

エ. 先を見据え、地域密着を活かしたサービスを模索する

6月のトライやるウィークを受け入れた中学校を後日訪問し、夏休みや休日にボランティア活動を提案したが学校行事としてではないためとして、実現できなかった。

味間奥自治会へ、茶の花通信や文化祭の案内配布(150部)は実施できた。今後は更に文化祭や季節の行事の合同イベント等、提案・実施し、地域活性化・デイの認知度アップを図りたい。

③ 月別利用状況（定員 18 名）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	26	27	26	27	26	26	27	25	27	26	24	26	313
登録者数	35	31	31	32	31	31	31	31	30	29	29	31	372
利用実人員	30	29	30	29	29	31	30	29	29	28	28	28	350
利用延人数	271	253	260	247	241	277	257	250	250	240	218	255	3,019
要介護度	支援 1	2	0	0	0	2	2	1	1	1	0	0	9
	支援 2	31	7	28	6	6	31	29	28	8	31	28	265
	介護 1	63	72	68	75	6	71	58	66	81	71	59	761
	介護 2	89	89	84	87	80	88	84	77	75	60	58	932
	介護 3	13	13	12	18	22	26	27	31	32	30	48	327
	介護 4	43	43	41	39	39	33	35	34	18	34	15	397
	介護 5	30	29	27	22	22	26	23	13	17	14	10	246
利用率	57.9%	52.1%	55.6%	50.8%	51.5%	59.2%	52.9%	55.6%	51.4%	51.3%	50.5%	54.5%	53.6%

④ 季節行事等の開催・実施

月	内容等
4	お花見ドライブ、おやつ作り（関東風桜餅）
5	母の日プレゼント、おやつ作り（ヨモギ団子）
6	父の日プレゼント、おやつ作り（変わりたこ焼き）トライやる受け入れ
7	七夕会、おやつ作り（ゼリーパフェ）
8	フラダンス（ボランティア）、おやつ作り（アイスクリームパフェ）
9	敬老会（プリマベラ、大正琴、プレリュード演奏会、味間愛育班）、利用者への記念品プレゼント、おやつ作り（五平餅）
10	文化祭、おやつ作り（さつまいもの茶巾絞り）
11	運動会、紅葉狩り、おやつ作り（かぼちゃの焼き春巻き）
12	クリスマス会（味間愛育班・スタッフ）、おやつ作り（クリスマスケーキ）
1	新年会（楽扇会）、おやつ作り（栗きんとん）
2	節分祭、おやつ作り（ガナッシュ豆腐ケーキ）
3	ひな祭り（味間愛育班）、春のいきいき作品展参加、おやつ作り（お好み焼き）

⑤ 行事等の様子



節分



文化祭（やすらぎ園内）



日常の様子(4人でゲーム)



「月刊デイ」レク・クラフトコンクール賞 伝達

⑥ 会議等

- ・ 部門会議（毎月開催）
- ・ 感染症対策委員会（5月、8月、1月、2月）
- ・ 虐待防止委員会（5月、2月）
- ・ 給食会議（奇数月）
- ・ 行事委員会

⑦ 研修会等

ア．内部研修

- ・ B C P 動画研修
- ・ 虐待防止動画研修

イ．外部研修等

- ・ この指と〜まれ研修（5月、9月）
- ・ 高齢者虐待防止研修（丹波篠山市介護サービス事業者協議会 6月）
- ・ 通所サービス部会（交流グループ討議 7月）
- ・ 地域密着サービス事業者連絡会（地域密着サービスについて 7月）
- ・ デイサービスが生き残っていくために（デイ部会 9月）
- ・ 感染症研修（感染症対策サポート柿サポ 10月）
- ・ 集団指導の実施について（動画研修 3月）

⑧ 広報・情報誌「茶の花通信」の発行

計6回（3・4月号、5・6月号、7・8月号、9・10月号、11・12月号、1月号）

⑨ 運営推進会議の開催

第1回 開催日：令和7年9月18日(木) 14時00分～15時10分

第2回 開催日：令和8年3月19日(木) 14時00分～15時05分

場 所：やすらぎ園談話室

(6) 小規模多機能型居宅介護センターやすらぎ古市館

① 評価

目標としていた新規の登録者を確保することと小規模多機能のメリットを活かしたケアの展開も行えた。デイサービスや訪問のホームヘルプサービスは目標を達成できたが、宿泊のみ目標数値には届かなかった。

デイサービス利用者が増え活気が出たが、利用者が増えたことにより以前は行えていた行

事が人員配置や業務の都合で行えず楽しみの機会を減らしてしまった。

全体的にはケアカルテの導入や業務の効率化、新規登録の確保、事業所として最重要項目が達成できたため、今後は利用者への楽しみやケアの充実を向上させていきたい。

② 重点項目の取り組み

ア. 西部地域包括支援センターとの連携を強化し、訪問事業に力を入れ、職員のスキルアップと収益の健全化を目指す

西部包括や他事業所からの紹介も多く目標とした新規登録者の確保できた。新規契約に伴い業務全体の見直しと介護技術の向上も同時に行う事ができた。また、継続して新規の問い合わせもある為、利用者側の要望に寄り添えるよう取り組んでいきたい。

イ. 西井クリニックやそうごう薬局波賀野店、いきいき塾サポーターと情報を共有し地域の方との関わりを広げる

古市館で開催した折り紙会は、薬局のスタッフや地域の方、事業所スタッフも参加し地域の情報共有や関わりに役立った。また、2月に行った餅つき大会では多くの参加があり、関わりを持つ機会が出来た。

ウ. ホームページや運営推進協議会、認知症カフェ等の地域集会において情報発信を積極的に行う

地区ミーティングやいきいき塾連絡会、カフェやすらぎに参加し、情報共有を行った。また、カフェやすらぎ実行委員会へも継続して参加した。

エ. 小規模多機能の特性を見つめ直し、古市館だから行えるサービスを状況に合わせて組み換え、提供する

利用者の介護度も上がっている事や訪問の増加、以前には無かった訪問の依頼内容に伴い技術的な面、応対面での課題が明らかになった。そのこと事により、スタッフ全体で対応に取り組み、段階的に技術面は向上した。しかし、専門知識の面ではアップデートが急務となっている。

③ 月別実績状況（登録定員 25 名、通い定員 15 名、宿泊定員 5 名）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
要支援1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3	3	3	19	1.6
要支援2	0	0	0	0	1	1	1	2	2	2	2	2	13	1.1
要介護1	8	8	8	8	8	8	8	8	7	8	8	8	95	7.9
要介護2	8	8	8	8	8	8	8	7	8	8	8	8	95	7.9
要介護3	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	22	1.8
要介護4	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	7	0.6
要介護5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0.3
計	18	19	20	20	21	21	21	21	22	23	24	24	254	21.2
通い	207	246	256	280	290	266	293	268	264	281	260	288	3,199	266.6
泊り	19	21	19	22	29	26	30	24	25	28	35	32	310	25.8
訪問	168	224	235	304	356	335	357	340	295	305	329	394	3,642	303.5

④ 行事

月	内容等
4月	花見ドライブ、カフェやすらぎ、折り紙会、シャクナゲ見学（ドライブ）
5月	カフェやすらぎ
6月	大国寺と丹波茶まつり、カフェやすらぎ、折り紙会
7月	七夕会、おやつ作り（本園合同）
8月	ふれあい祭り、折り紙会
9月	折り紙会
10月	カフェやすらぎ
11月	折り紙会、紅葉ドライブ
12月	クリスマス会、カフェやすらぎ（クリスマス会）
1月	カフェやすらぎ
2月	餅つき大会、カフェやすらぎ
3月	手作りおかき（おやつ作り）

⑤ 行事の様子



みんなで外出



餅つき大会



風船
落とさないで
(レクリエーション)



ふれあいまつり（やすらぎ園）

⑥ 会議

- ・職員会議（毎月開催）
- ・行事委員会（5月、3月を除く毎月開催）
- ・感染症対策委員会（5月、11月、2月）
- ・虐待防止委員会（5月）
- ・身体拘束廃止委員会（5月、11月、2月）

- ・リスクマネジメント委員会（１１月）
- ・カフェやすらぎ実行委員会（４月、３月）
- ・いきいき塾担当者会議（５月、３月）

⑦ 研修

ア．内部研修

- ・小規模多機能について
- ・リハビリ・モラルについて
- ・個別ケア・記録の再確認
- ・消防訓練（心肺蘇生法）
- ・ＢＣＰ動画研修
- ・身体拘束・虐待防止研修
- ・事故防止研修
- ・虐待防止研修
- ・消防訓練、ＢＣＰ訓練「地震による災害と備え」

イ．外部研修

- ・通所サービス交流会
- ・地域密着サービス事業者連絡会
- ・認知症実践者研修
- ・認知症対応型サービス事業者管理者研修
- ・福祉従事者中堅職員研修
- ・４ＤＡＳ研修

⑧ 広報誌・情報誌「やすらぎ古市館だより」の発行 計４回（５月、７月、１１月、１月）

⑨ 運営推進会議の開催

２カ月毎に開催

開催日：５月２８日、７月３０日、９月２４日、１１月２６日、１月２８日、３月２５日

開催場所：やすらぎ古市館１階

(7) 居宅介護支援事業所

① 評価

新規依頼はあったものの数か月で入所になるケースが多く、なかなか件数増とはならなかった。

② 重点項目の取り組み

ア．感染症予防や自立支援型ケアプラン作成などの基礎研修に参加することができた。

イ．感染症等に関して多職種との連携を図ることはできたが、脳梗塞などの重篤化する疾患に対して、状態変化の発見から受診等までは早い対応ができたものの、予後の状態が思わしくない方も多かった。

ウ．ケアマネ同士の繋がりや多職種との連携の中で、情報の収集は継続できた。

③ 月別実績状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
件数	52	49	51	55	51	52	51	52	44	48	49	46	600	50.0
軽度	34	34	32	34	34	32	31	31	29	28	30	28	377	31.4
重度	18	15	19	21	17	20	20	21	15	20	19	18	223	18.6
新規	2	1	2	2	2	0	1	3	0	4	2	1	20	1.7
中止	0	0	0	1	3	0	1	4	4	2	1	1	17	1.4
認定調査	1	2	0	1	1	1	0	0	0	3	0	0	9	0.8
申請代行	3	3	3	1	1	3	3	1	2	2	3	4	29	2.4

④ 研修、その他

ア. 内部研修

- ・感染症研修
- ・法人研修
- ・虐待防止動画研修

イ. 外部研修

- ・高齢者虐待防止研修
- ・自立を助ける住環境づくり
- ・介護支援専門員研修（BCP 研修）
- ・感染症研修
- ・多職種連携研修「この指と～まれ」
- ・民生委員児童委員との交流会
- ・駐在所と介護支援専門員との交流会
- ・丹波篠山市介護サービス事業者研修（介護保険の経緯と現状・BCP 机上訓練演習）
- ・地域密着サービス事業者連絡会
- ・兵庫県福祉部高齢政策課（介護保険サービス事業者等に対する集団指導）

ウ. 会議・委員会

- ・部門会議
- ・虐待防止委員会、・感染症対策委員会、・行事委員会

(8) 地区いきいき塾（市よりの受託事業）

市受託事業として地区まちづくり協議会と協同して実施した。

- ・開催日：味間地区（毎週火曜日 午前）、古市地区（毎週金曜日 午前）
- ・時間：1回 約2時間
- ・内容：デカボー体操、意見交換（コミュニケーション）等
- ・専従職員1名、その他古市館職員兼務

地区名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
味間	回数	4	3	4	5	3	4	4	4	5	4	4	4
	人数	24	27	33	51	25	23	21	17	51	40	38	32
古市	回数	4	5	4	4	4	4	5	4	3	4	4	3
	人数	24	40	36	33	29	24	36	15	22	20	29	16

6. 職員（令和8年3月31日現在）

(1) 職員数

（単位：人）

区分	正規	嘱託・契約	非常勤(社保加入)	その他非常勤等	計
女	25	8	10	16	59
男	24	2	0	4	30
計	49	10	10	23	89

(2) 表彰・感謝関係

① 兵庫県共同募金会表彰

共同募金会会長感謝状：社会福祉法人丹南厚生会

11月17(月) 丹波篠山市四季の森

芝拓哉理事長、濱川茂副施設長出席

② 兵庫県知事表彰（11月6日 第73回兵庫県福祉大会 淡路市）

岡容子（社会福祉関係功労者 優良介護職員）

③ 兵庫県社会福祉協議会会長表彰（11月6日 第73回兵庫県福祉大会 淡路市）

西山美保（社会福祉事業功労者 社会福祉施設職員）

近藤なつき（同上）

④ 兵庫県老人福祉事業協会（7月7日、同協議会定時総会時 神戸市）

会長表彰：濱川茂、小島順子

⑤ 丹南厚生会理事長表彰（5月1日）

やすらぎ園永年勤続：(20年) 吉田大介、岡容子、(15年) 西山美保、近藤なつき
(10年) 中村幸生、永尾美加

(3) 職員状況

① 採用職員：正規職員：9名（介護6、看護1、相談1、事務1）

非常勤職員：5名（契約1、パート4）

② 退職者：正規職員：6名（介護職2名、相談員2名、事務職1名）

非常勤職員(パート職員)：9名

③ 転換制度等：契約⇒正規 1名（介護）、パート⇒契約1名（介護）

④ ストレスチェック

実施期間：2月6日～23日

委託業者：市民健康開発センター「ハーティ－21」

受検者数：71名（対象者数86名、82.6%）

その他：健診結果は産業医が確認し、希望者は産業医面接実施

⑤ 外国人労働者の雇用

雇用人数：2名（男1名、女1名）

国籍：ベトナム社会主義共和国

登録支援機関：兵庫中央事業協同組合（丹波市）

7. 地域貢献活動及び各種団体等との連携

(1) 各種会議への参加

- ① 丹波篠山市介護サービス事業者協議会（定例会（毎月）、運営委員会、総会に参加）
- ② 丹波篠山市社会福祉法人連絡協議会（役員会、総会等に参加）
 - * 総会及び研修会 7月2日(水) 丹南健康福祉センター
 - * 社会福祉政策に関する要望書の提出及び意見交換会 11月21日(金) 市長公室
 - * 兵庫県内社会福祉法人連絡協議会代表者会に出席
- ③ 丹波篠山市給食施設協議会
6月5日(木) 四季の森学習センター
- ④ 地区福社会議への参加
味間地区、大山地区、古市地区、城南地区

(2) 市内障害者作業所への業務支援、作業委託等

- ・ パンの販売（わかたけ福社会）
- ・ 段ボール等の回収（いぬいふくし村）
- ・ やすらぎ園周辺除草作業（櫛農園）

(3) 地域行事等への参加

- ① 丹波篠山市社会福祉協議会事業への協力
 - * 福祉ジュニアカレッジ、* ささっこ食堂送迎
- ② 認知症カフェへの参加
古市地区で開催される集いに参加
- ③ 味間地区行事（茶まつり）に参加 6月7日（土）
- ④ 味間奥自治会関係行事への参加
 - * 第4福寿会総会 4月5日(土) 茶の里会館
 - * 味間奥敬老祝賀会 9月15日(月・祝) 茶の里会館
 - * 味間奥自治会加入

(4) 施設見学（やすらぎ園、古市館）

味間ふれあい館 （9月11日）20名

(5) その他

- ① 実務者研修実習スクーリング会場提供（2クール、計14日）
- ② 警察友援会、防火安全協会、交通安全協会への参画及び行事等への参加
- ③ やすらぎ園古市館を地域事業等へ場所提供
- ④ 介護支援相談専門員の訪問受け入れ(随時)